

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
☎ 042-795-7361 (FAX: 必  
要に応じて186を頭に加える)  
議会 042-724-2171  
yoshidaben@gmail.com



## 岡山市：ハレまち通りで活性化

総務常任委員会視察、地域の活性化の取組

中心市街地全体(約1km四方)に賑わいをもたらすための方策として、岡山駅前と、大型デパートや商店街が並ぶまでの区間を結ぶ通り(旧県庁通り)を「ハレまち通り」として改修するものでした。その計画では、それまでの2車線一方通行通りを、1車線一方通行通りに改編整備し、歩道を拡張して、車道の端に自転車走行空間を設置するものです。また、歩道には街路樹も配置し、市民が回遊し、買い物に誘い出す歩道空間を充実させるためのものでした。



「ハレまち通り」の基本は、旧2車線一方通行道路で、車を駐車して容易に荷下ろしスペースを確保し、ところどころに駐車スペースを確保することで代替し、広い歩道空間を創ることでした。各店舗が1mの範囲で歩道を占有して陳列棚やカフェコーナーを設置できるように街を作り直したことで、消費者の回遊時間を費やす「通り」が形成されたというものでした。

## 桑名市視察：桑名福祉ビレッジ

保育園・障がい者・高齢者施設が一体整備

子ども(保育園)から高齢者(養護老人ホーム)、さらに障がい者(通所施設)までを対象にした、(総合)福祉施設で構成され、それらが総合的に運営されていました。児童発達支援施設も設置されています。これらの運営は、桑名市社会福祉協議会でありましたが、これだけ多様な事業を集約した取り組みは珍しいでしょう。この施設は「多世代共生施設らいむの丘」と言い、桑名市社会福祉協議会の主要事業の一つを構成しています。

施設建設は、この種の工事に実績を持つ大手の大和リースが担当し、周囲の公園整備も含まれるものでした。施設の内容は大和リースが提案したものであり、構造は、多種類の通所施設と入居施設が一体、同じ敷地の中に円形の建物になっており、その内部が駐車スペースになって効率的な配置とされていました。基本的には、行政の福祉分野の受託事業であり、一定の保証があると見られました。ただし、売店部門は自主事業で、生協製品の販売のほか、施設従業員の弁当、パンの販売で売り上げを確保する自助事業の特徴がみられました。



○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、  
夏季休暇期間中の募集開始

## 那覇の女性議員等パネルディスカッション

喜友名智子沖縄県議らが参加した zoom 会議

沖縄県議会議員 喜友名智子さんを訪ねました。那覇市の在住ですが、選挙区名は「那覇市南部離島」と言い、那覇市・久米島町・栗国村・渡名喜村・座間味村・渡嘉敷村・北大東村・南大東村(沖縄本島から約 400 km の距離)の 1 市・1 町・6 村という広域で構成されています。そうしたこともあって、政治家の通信連絡手段としてインターネットは通常のツールとなっており、会議も Zoom を使った方法が普段から使われているとのことでした。



喜友名さん(左側のパネラー)も参加したパネルディスカッションがこじんまりしたライブハウスで開かれ、その場には 10 人ほどの観客が聴き入っていました。しかし、スマホカメラを利用して撮影した Zoom を閲覧する人が島部の参加者を含めた数十人も登録されており、チャットで質問が随時送信されていました。司会者の説明では、この那覇南部離島選挙区を含めた沖縄では、こうしたネット会議がたびたび開かれており、それらはユーチューブでも配信されるという説明でした。喜友名智子沖縄県議会議員は、吉田つとむインターンシップ第 1 期生の一人であり、数少ない政治家志向の参加者でした。

## インターン体験記①酒井 優子

朗読サークルすずの音さんの公演について

神奈川県立近代文学館にて行われた、朗読サークル“すずの音”さんの朗読劇を鑑賞してきました。演目は中島敦の『山月記』、梨木香歩の『サルスベリ』『竹の花』、東直子の『ロージン』の四作品でした。

出演者の皆さんが朗読されているのを拝見していて、何点か気づいたことがありました。まず、作品に合わせた衣装選びです。『山月記』の朗読の際には、チャイナ服を取り入れた衣装を身にまとっていて、作品にのめり込める雰囲気を作り出していました。また、出演者の方が用いる台本の表紙もきれいにデザインされたもので、細部にまでこだわっているのが伝わってきました。何より印象に残ったのは、演じる際の表情です。朗読と聞くと声だけで演じるイメージが強いですが、実際には声だけではなく顔にも喜怒哀楽の表情を浮かばせていました。

最近ではサブスクリプションの出現により、プロの朗読をいつでもどこでも好きなように聞くことができます。しかし、衣装やその他細部へのこだわり、そしてなにより演者の方の表情までも含めて朗読を楽しむことができるのは、実際に朗読劇に足を運んで、生で鑑賞することの特権なのではないかと感じました。



東京都立大学 2 年生 酒井 優子(第 53 期生)

◎吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、2024 年 4 月末までに 106 名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。